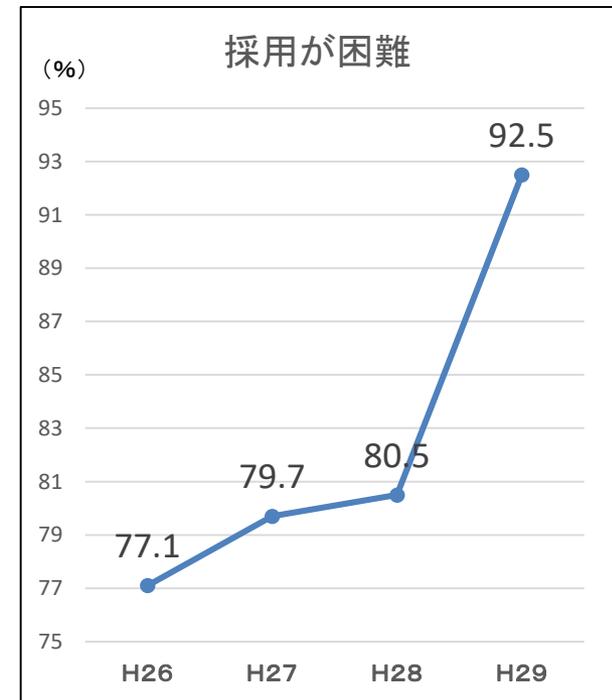
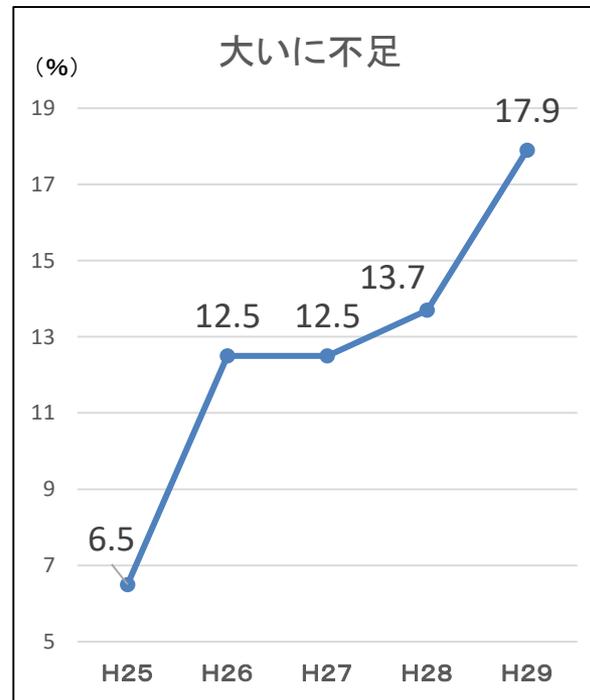
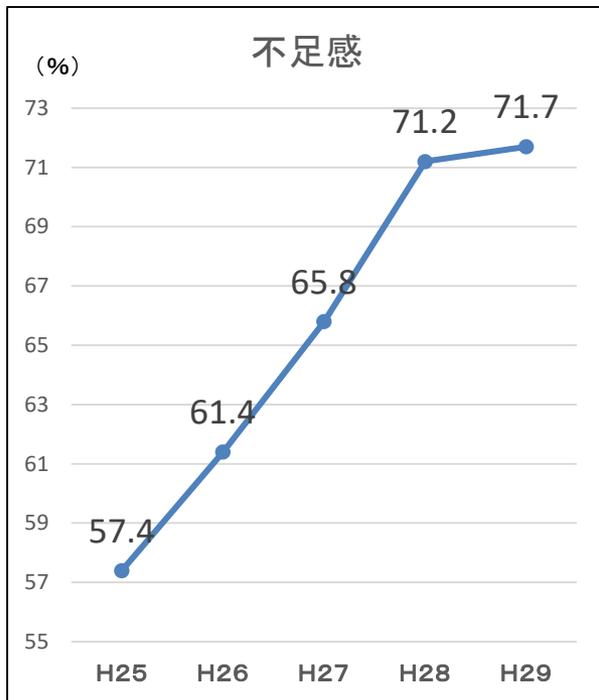


認知症グループホームの人材不足の状況①

資料5

- 介護職員の「不足感」は年々上昇し、平成29年度調査では約7割となっている。
- 特に「大いに不足」と回答した事業所は平成25年度調査と比較し、約3倍となっている。
- 「不足している理由」は「採用が困難」が最も多く、平成29年度調査では約9割となっている。



- ・回答事業所数（H25調査：633、H26調査：609、H27調査：641、H28調査：628、H29調査：569）
- ・「不足感」は、「大いに不足」、「不足」、「やや不足」と回答した事業所の合計。
- ・「不足している理由」の「不足」回答事業所数（H26調査：278、H27調査：340、H28調査：328、H29調査：333）

認知症グループホームの人材不足の状況②

○当協会調査の「現在直面する経営上の具体的な課題(自由回答)」からは、人員に余裕のない状態が常態化しており、新規採用においても困難な状況に直面していることが窺える。

○介護職員を募集しているが、応募の問い合わせが少なく、人員確保が難しい。

○ハローワークに介護職員の求人を出しても応募がない状態が続いている。

○人材不足の為、派遣会社や紹介会社から職員を雇用しているので人件費がかかる。

○人材不足による職員募集の広告料や派遣料、紹介料といった経費が増えている。

○職員が定年退職しても新人職員の確保ができない。

○介護福祉士、介護支援専門員の確保が困難な状況にある。

○夜勤職員の確保が困難である。

○人員に余裕がないため、研修に参加するのが難しい。

○人員に余裕がないため、来年度より導入される有給休暇取得義務化への対応ができるか不安である。

○人材不足。特に夜勤のできる職員の不足と若い世代の職員が採用できず、高齢の職員の身体的負担が大きくなっている。

認知症グループホームの人材確保の取組み①

- 「介護助手」の活用例(三重県のグループホーム)※平成30年度三重県地域医療介護総合確保基金「モデル事業」
 - 募集・・・全戸に求人チラシを配布(週1日2時間～可、掃除・洗濯・食事づくりなど介護の補助的な仕事、お元気な熟年の方など年齢を問わず募集)。
 - 事前説明会・・・10名参加。後日、6名と個別面談の結果、「介護助手」として3名採用。
 - 「介護助手」・・・最高齢69歳の方など3名勤務。2名は週2回2～3時間、1名は週1～5回8時間勤務。3名とも無資格であるが、OJTにて研修している。
 - 業務内容・・・介護業務に付随する間接的業務。入居者には直接触れない作業的な仕事を中心。
(例)17時～19時 食事見守り、下膳、食器片付け、台所片付け、洗濯、見守り
 - 「介護助手」導入による事業所の効果
 - ・入浴介助などの身体介護や行動・心理症状が強い方への対応など専門性が求められる業務と調理や掃除など家事ができれば専門的知識がなくてもできる業務を仕分けることで、介護職員がより専門性を発揮して業務に取り組める環境をつくることができ、また、待遇も手厚くすることができる。
 - ・介護職員の負担軽減とやりがいを高めることで離職予防や新規採用にもつながると考える。
 - 「介護助手」本人にとっての効果
 - ・無資格でも短い自分の空いている時間から気軽に始められる。
 - ・慣れてきたら時間や日数を増やしたり、介護職員への道も用意されているので、「介護助手」の方にとっても介護の世界に入るきっかけになると考える。
 - 「介護助手」を導入した上での課題
 - ・他のパートの職員と効率的・効果的にシフトを組み合わせるのが難しい。

認知症グループホームの人材確保の取組み②

●認知症劇による小学生への普及啓発例(大阪府のグループホーム)

- 平成21年度より市内のグループホーム事業所が集まり、子ども時代に認知症に対する正しい知識を知ってもらいたいという思いから、年5～6回程度市内の小学校で認知症を題材とした劇を実施している。
- アンケート結果からも「認知症のことがよくわかった」など小学生や教職員の反応も非常によく、ぜひ続けてほしいという要望もあり、現在まで継続して実施している。
- 劇をきっかけに小学生がグループホームを訪問するなどの交流も始まっている。

●中学生による職場体験例(愛媛県のグループホーム)

- 年に1回、中学校の職場体験プログラムとして、地元の中学生4～5人を受け入れている。
- 体験日数は、個々の中学生によって異なるが、おおよそ3～5日程度。
- 介護に興味のある中学生がやってくるが、体験終了後は、「また、来たい」など介護をより前向きに捉えるよい機会となっている。

●高校生への小冊子配布例(北海道のグループホーム)

- グループホームで実際にあった話を基に小冊子を作成。市内の全高校に50部ずつ配布し、新たに介護職を目指す人材の発掘を図っている。
- 実際に高校生対象に行う職業説明会で直接生徒に話しても効果があまり見られなかったため、漫画という若者向けのツール使うことで、目で見るとして感じることで、介護に少しでも興味を持ってくれればよいと考えている。